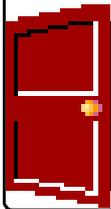


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

N o 85

桑村小学校令和6年1月29日

文責 渡邊

「いのちのおはなし」を読んで、感じたこと!!そして、実践したこと!!

今回は、医師である日野原重明氏が著した絵本『いのちのおはなし』（講談社 2007年1月）を読んで感じたことを記したいと思います。

まずはじめに、「あいさつ」のすばらしさについて触れています。

「元気なあいさつを、ありがとう。きみたちに会えることを、わたしはとても楽しみにして、今日ここにきました。わたしはあいさつが大好きです。人間が生み出したもののなかで、あいさつのことばほど、すばらしいものはありません。会う人とよびかけあうことばは、おたがいのきもちを、ぐんと近づけてくれますからね。」（絵本より引用）

この絵本『いのちのおはなし』は、2003年にお茶の水女子大学附属小学校での授業を再現したものであると、「あとがき」に記されています。上記のように絵本の中で、「あいさつ」のすばらしさについて触れられているのは、日野原先生らしいと嬉しくなりました。

さあ、いよいよ「いのち」のお話です。

授業の中で、子供たちは、聴診器をそれぞれの胸にあてて心臓の音を聴きます。

聴診器をかたづけてから、先生はこうききました。

「では、最初にした質問を、もういちどします。いのちは、どこにあると思いますか。」
「心臓!」と、胸に手をあてる子。「考えるのは頭だから。」と、頭を指さす子。「からだぜんぶ!」と、答える子。いろいろな意見が出てきます。

先生はみんなの意見にうなずきながら、「わたしは、こんなふうを考えています。」
といました。「いのちは、きみたちのもっている時間だといえますよ。」（中略）

「これから生きていく時間。それが、きみたちのいのちなんですよ。」

みんなは、生きていることのうれしさを、感じはじめていました。心臓は、いまこのときも、自分たちのなかで、未来にむかって打ちつづけているのです。（絵本より引用）

「あとがきー「いのち」と「こころ」ー」にも、感動的なメッセージが載っていました。うーんと思わず唸ってしまいました。

（前略）「いのち」や、いのちをどうつかおうかと決める「こころ」は見えませんが、見えないものこそ大切にすべきです。空気は見えませんが、人が生きるために大切だということに似ています。

わたしの時間は残り少なくなってきましたが、自分の時間をほかの人のためにつかって、せいっぱい生きたいと思います。言葉でいうのはかんたんですが、じつはむずかしいことです。でも意識して、努力したいと思います。

自分のもっている自分の時間。それが自分のいのち。

きみたちはこれから、そのことをよく考えて、生きていってほしいと思います。（絵本「あとがき」より引用）

95歳の日野原先生から10歳の子供たちに贈ったメッセージ。60歳の私にも強く届いてきました。絵本の中に込められたメッセージを本校の子供たちがどのように受け止めるのか。

子供たちに「いのち」と「時間」の大切さを、この絵本から感じてもらうことができたならと願い、1月15日(月)の昼の放送で、全校の桑っ子に向けて校長は読み聞かせを行いました。し〜んと静まりかえった様子に子供たちの真剣な思いが感じられました。



【自然の大きさを感じた「原生林探検」】